Member's Forum

会員投稿の頁

U-35委員会企画

talk baton 06　活動報告

talk baton とは…

若手プラットフォームづくりの活動の一環として、建築を取り巻く他分野のゲストがトークのバトンを繋げていくコミュニケーショントークイベントです。

建築をフィールドとする私たちと毎回のゲストとの対話を通じて、建築が本来持っている多様性やバイタリティを見つめ直し、これからの建築に求められる領域を探っていきます。

U-35委員会Facebookページ

活動内容やメンバーの雑感などざっくばらんに情報をアップしています。ぜひ一度お立ち寄りください。

https://www.facebook.com/U35.aaj

talk baton 06

「建築と街区」

ゲスト
御堂筋まちづくりネットワーク事務局 太治大輔 氏
御堂筋沿道のエリアマネジメントに携り御堂筋の賑わい創出に取り組む。株式会社竹中工務店勤務。

大阪のメインストリート「御堂筋」が今回の会場である。会は３部構成で行われ、まずは淀屋橋odonaにある大阪市のまちづくり情報発信施設である「アイ・スポット」に集まり、ゲストの太治氏のレクチャーを受け、その後参加者全員で夜の御堂筋散歩へ。再度「アイ・スポット」へ戻り、散歩で感じたことをみんなで話し合う座談会が行われた。

■景観形成からにぎわい創出へ

1930年の御堂筋の工事写真からレクチャーは始まった。幅員44mの現在の御堂筋の原型は1937年に完成、来年80周年を迎える。当時の革新的な都市計画により御堂筋沿いの建物は高さ制限、壁面後退による統一感のある街並みが形成された。その後緩和も行われ、現在の街並みは高さ制限31mと50mの両時代が混在してできている。これらはハードとしての景観形成であったが、2014年に策定された地区計画では建築部の低層部や壁面後退部分を活用した『上質なにぎわい』の創出が目標に盛り込まれた。

太治「『上質なにぎわい』と言ってもイメージがしづらい。将来的に壁面後退部分がどのような使われ方をするのが本当に望ましいかは、具現化し、可視化、共有化を図る必要がある。」

2014年に大阪市と協力し、実際に壁面後退部分や側道を使いでオープンカフェやコンサートなどを行うイベント『御堂筋ピクニック』を社会実験として実施。

太治「壁面後退部分を御堂筋の貴重なオープンスペースとして捉え、それをどう使えばにぎわいが連続するか、御堂筋の活性化に寄与できるか。みなさんも散歩の際にそういった視点で歩いてみてください。」

その他に、屋外広告物の在り方と、現在車道となっている側道の新たな空間整備について、街を観察するヒントとして太治氏がレクチャー。新たな御堂筋への興味が沸いてきたところで御堂筋散歩へ。

■御堂筋散歩

淀屋橋odonaから南へ向かって散歩スタート。まずは西側の31m時代の壁面後退部分を実感しながら、現在の御堂筋完成当初から建っている大阪ガスビルを過ぎ、しばらくして東側歩道へ。壁面後退部分を活用した常設のオープンカフェ様子を伺い、社会実験の会場となったエリアを北上し、淀屋橋odonaへ戻った。道中は太治氏の場所毎の解説を聞きながら、参加者が気になった場所や物を写真に記録しながら歩いた。

■座談会

２チームに分かれてディスカッションを実施。「アイレベルでの楽しさを創出するためにヒューマンスケールでの工夫が必要。」など最も多かった意見がスケール感の改善であった。歩行者や利用者など人目線での空間づくりがにぎわい創造に寄与するのではないか。

その他に「自転車の路上駐輪対策としてのおしゃれな駐輪施設の設置」「舗装や植栽の統一」「南北だけでなく東西方向への賑わいの広がり」などにぎわい創出や魅力向上のための活発な意見交換が行われた。

街というリアルな実験場で手探りのアイデアを実際に具現化し、その効果を街の生の声を聞くことで確認、具体化していくトライアルは、これからの都市や街を考えていく上で非常に興味深い有効な手段ではないだろうか。

talk baton 06 を終えて

会場へ一番乗りは、なんと東京から来たという学生さん。はるばるこのための来阪して頂いたとか。talk batonもついに関西の枠を超えたか。身近で見慣れているはずの御堂筋で、新たな視点をもって散歩することで様々な発見があった。凝り固まった頭が他分野の視点に触れることで、新たな発見が生まれる。今回もtalk batonの醍醐味を味わった気がする。

対　談　日：2015.08.07
場　　所：アイ・スポット(大阪市中央区)
モデレーター：興津 俊宏（竹中工務店）

アイ・スポットでのレクチャーの様子

社会実験「御堂筋ピクニック」の様子